

第41回創価大学・第29回創価女子短期大学卒業式「祝辞」

「創価大学卒業生が継承すべき遺産と厳粛な責務と明白なる使命」

ヒラリオ・G・ダビデ

池田大作博士、
原田創価大学最高顧問
馬場 創価大学学長、
田代理事長
石川 創価女子短期大学学長、
副学長の皆様、
理事会並びに学術評議会の皆様、
教職員の皆様、
卒業生の皆様、
保護者とご家族の皆様、
ご来賓、ご列席の皆様

太平洋に浮かぶ7,017の島からなり、1億人以上の人口を擁する美しき国、そして皆様が愛する日本のすぐ近くにあるフィリピンから、喜びをもってご挨拶させていただきます。皆様、こんにちは！

まず初めに、昨年12月19日付けのお手紙で、私を、創価大学および創価女子短期大学の卒業式の講演者として、ご招待下さった馬場学長に、深く御礼申し上げます。このご招待を頂いた時、私は感激し、大変嬉しく思いました。そして、このお招きに応じたことには、主に二つの理由がありました。

一つは、この神聖な学び舎である創価大学に再び戻ることができるとの理由でした。と申しますのも、ちょうど13年と3日前の2002年3月15日、池田大作博士の強いご推薦と貴大学の学術評議会の全会一致の決定により、私はここ創価大学で、貴大学の名誉博士号を授与していただ

Hon. Hilario G. Davide (フィリピン共和国 最高裁判所元長官)

きました。池田博士は、貴大学の名誉ある、最も尊敬する創立者であられ、創価学会インタナショナルの会長、世界的に著名な仏教哲学者、平和の建設者、教育者、そして国連平和賞など数多くの賞を始め、世界五大陸の 350 の大学からの名誉学術称号の受章者でいらっしゃいます。

池田博士は、仏教の悟りと智慧を持ち、それを人類の繁栄のために、無私の精神で全ての人と分かち合ってくださいている神様からの類まれな贈り物です。すぐさま私は博士を師と仰ぐ教え子となり、博士と香峯子夫人に、私と（今日ここにおります）私の妻とで直接お会いできた時は、忘れがたい感動と喜びに包まれたものです。その授与をもって、私は偉大な教育機関である創価大学の誇り高き卒業生となりました。しかし、貴大学が正に、44 年前の 1971 年 4 月 2 日に創立された際の構想通りに、立派な創価教育の城として高くそびえ立つ姿に、本日、私はその誇りをよりいっそう、高くいたしました。

創価大学には、3つの「建学の精神」があります。

「人間教育の最高学府たれ」

「新しき大文化建設の^{ようらん}揺籃たれ」

「人類の平和を守るフォートレスたれ」

創立当時、経済学部、法学部、文学部のたった3つの学部、4つの学科で出発した貴大学は、更に大学院、研究機関、学部、学科を増やしながら、目を見張る、驚異的な大発展を遂げ、また、アメリカ創価大学が創立され、さらには5大陸にわたる国際交流の総合的なシステムの確立により、建学の精神に裏打ちされた人生を力強く歩む世界市民が輩出されるようになり、よりいっそう国際的な大学となりました。

その建学の精神は、池田博士の言葉を借りるなら、価値創造であります。「人生の価値、生き抜く価値を。勝利の価値、そして、幸福の価値」を創造することあります。

親愛なる創価大学の皆様、私は皆様に敬意を表します。本日私は、名誉博士号をいただいた時にも増して、創価大学の卒業生であることを誇りに感じながら、皆様のもとに帰って参りました。

39年11ヶ月26日前の1975年3月22日、創価大学では613名の前途有望な卒業生たちが、第1回卒業式を迎えていました。その卒業生の姿を、池田博士は万感を込めて、このように綴られています。「混乱しきったこの世で、この道で、彼らの瞳は、正確に歩みゆく軌道を決して外れない。^{あか}垢にまみれた心、荒廃の社会にあって、豪華な信念の彼らは、偽善者どもを叩き、正している。彼らの人生は、快樂よりも、崇高な感謝に光っている」(2000年3月20日付け聖教新聞、随筆「創価大学の第1回入学式」より)と。

以来、何千人、何万人もの創価大学の卒業生が陸続と続き、今や、ここ日本で、そして世界のあらゆる場所で、あらゆる分野で、人類に奉仕し、民族、肌の色、国籍、文化、宗教、性別、年齢に関係なく、人々の人生に影響を与える存在となっております。創価大学の卒業生の皆様は、一人ひとりが、世界のどこにもない、この創価大学にしかない人間教育の魂と心を掲げ、実践する人生を歩まれ、そして生涯にわたり、創価の建学の精神の光に導かれているのです。

彼らは、人のため、人類の勝利のために、みな模範となるべく、灯台の明かりとなって輝いています。人類の勝利とは、愛の中にのみ見出せるものであり、その価値は計り知れません。であるからこそ、私は創価大学の名誉博士号の授与式の席上、謝辞の中で、このように申し上げたのです。「愛とは、まぎれもなく、創価大学の3つの建学の精神の心です」と。愛をその原動力としていなければ、人間教育を実現することも、発展させることもできないのです。

新しい文化は、愛が礎^{いしずえ}になければ生まれません。そして全ての人の心が愛によって導かれなければ、平和は栄えることはできません。創価大学は愛という美德と価値に捧げられた大学であるがゆえに、その偉大さは、他に類を見ません。私は愛こそ、日蓮仏法の心であると思っています。なぜなら、日蓮仏法は「誰人にも仏の無限の力と智慧と慈悲がある」と教えているからです。慈悲こそが、真実の完璧な愛です。そして、キリスト教の教えも同じく、愛を根底にしています。イエスキリストは愛ゆえにはりつけにされ、愛いゆえにこの世に生まれたのです。

創価大学のこのような素晴らしい発展や比類ない実績を見るにつけ、絶え間なく、全力をあげて、建学の精神とビジョン^{けんじ}と使命を堅持してこられた、馬場学長はじめ、貴大学の皆様の、模範的かつ優れたリーダーシップに、称賛とお祝いを申し上げます。

さて、馬場学長からのお招きに応じた2つめの理由は、3000名の学生の皆様とお会いできるまたとない機会が得られると思ったからです。皆様はこれから、創価大学で培ったビジョンと使命を胸に、新たな世界市民として、現実社会へ旅立ちます。愛する創価大学、創価女子短期大学の卒業生の皆さん、皆さんは神聖なる遺産、つまり、創価大学の「人間主義の教育」、「価値創造の教育」という名の遺産を、受け継がれたのです。1973年4月9日の第三回の入学式での、池田博士の感動的な言葉は皆さんに創価教育の遺産を常に思い起こさせることでしょう。博士は次のように皆さんに語りかけております。

「創価大学は、皆さんの大学であります。同時に、それは、社会から隔離された象牙^{ぞうげ}の塔ではなく、新しい歴史を開く、限りない未来性をはらんだ、人類の希望の塔でなくてはならない。ここに立脚して、人類のために、社会のために、無名の庶民の幸福のために何をすべきか、何をすること

ができるのかという、この一点に対する^{しきく}思索、努力だけは、永久に忘れてはならない。」(池田大作全集 59 巻、27 ページ)

その神聖な遺産を、大事にし、守ること。それが、皆さんの厳粛で、究極の、最重要の責務です。どうかその遺産を汚したり、損なうようなことはしないで下さい。命をかけてでも守って下さい。今の皆さまがあるのも、その遺産があったればこそだからです。

しかしながら、本日卒業されゆく皆さんには、やるべきことが以前より増して沢山あることを、強く申し上げておきます。第一期生が卒業された 1975 年、さらにはその後数年と比べても、今の世界の様相は、まったく異なるのです。今は恐怖の世界です。試練や悲劇の世界であり、多くの困難な課題に囲まれた世界です。

皆さんは気候変動の最悪かつ恐ろしい影響が、いよいよ脅威的なレベルに達した年に卒業されます。気候変動により私たちは、史上最大の台風(ヨランダ)、洪水、竜巻、地震、火災に見舞われ、何百万人もの死傷者が出たうえ、家屋の破壊、飢餓、病気などの事態が起きています。復興するまでには大変な苦勞と苦痛を伴う長い年月を要するでしょう。フィリピンも日本もまた自然災害や人災から免れることはありませんでした。

皆さんはまた、世界のあらゆる場所で多くの人々が戦争、内乱、宗教的不寛容、抑圧、迫害および不正などの犠牲になっている年に卒業されます。核戦争の脅威は未だ深刻な問題です。北朝鮮やイランは「核のない世界」を求める潮流に無関心を装ったままです。私たちは、日本が核廃絶の運動の先頭に立っていること、そして池田博士は 40 年間、核廃絶を訴え、戦われてきたことを忘れてはなりません。

また皆さんが卒業される年は現代の奴隷制とも言える人身売買を始め麻薬取引、児童労働、児童虐待が増加し、なすすべもなくなっている年でもあります。

更にテロ集団や宗教的過激派がその存在と残虐性を強め、卑劣なまでに生命の価値を軽視し、人々の中に恐怖を植え付け、苦悩を与え、あらゆる人々、および世界そのものの平和を乱し、安全を脅かしています。オサマ・ビン・ラディンのグループであるアルカイダによる犯罪行為は収まることはなく、そして今では危険極まりないイスラム国(ISIS)は市や町を攻撃し、罪のない人々の命を奪うような行為を続けていることを考えてみて下さい。何百万人もの人々が自らの命を守るために、家を捨て、避難を強いられているのです。

また、皆さんが卒業される年は世界のあらゆる場所で、政府の腐敗・墮落が横行する時代です。

腐敗は貧困層を襲い、社会を蝕む癌です。

更に、皆さんが卒業される年は人間による、人間に対する最も非人道的な行為を経験する年になる可能性さえあります。

そしてなお、皆さんが卒業されるこの年は、それが痛ましい形で現れることになったとしても、世界の平和、基本的人権の尊重、そして公正かつ人道的な社会が最も切に求められる年になるかもしれません。

創価大学の最も若い卒業生である皆さんは、神聖なる創価教育の遺産を受け継ぐために生まれ、そして、それを守るという厳粛なる責務があります。大切な卒業生の皆さんの明白なる使命は、混沌とし、危機的状况におかれたこの世界と、深刻な危険にさらされている人類の前に立ちはだかる挑戦に立ち向かうことです。それは気力をくじくような非常に困難な仕事です。

弱い者、そして臆病者はこれらの悪と戦うための準備を始めることすらしないでしょう。彼らは、単に、この挑戦から逃げるか、諦めるか、あるいは、ふがいない敗北に身をゆだねることでしょう。

しかし勇敢で心強き人、未来のビジョンを持つ人、人間主義の人、啓発の文化の中で育った人、そして、平和と真実と正義を愛し、掲げる人のみが、悪の勢力を打ち破り、根絶するために、また、人類と世界を救うために、闘争を開始し、戦い続けることができるのです。彼らのみがこれらの悪に勝つことができるのです。

皆さんが創価大学で受けた教育は、様々なカリキュラムや課程を通して、皆さんの中に、人間愛や他者を慈しむ心の美徳を深く刻んでくれました。そして皆さんが人類と世界を救うための諸悪との戦いに、全身全霊で挑み、その支配に終止符を打つために必要なものを、すべて備えてくれました。創価大学の創立に込められた偉人たちの精神、すなわち、牧口常三郎先生、戸田城聖先生、池田大作博士の精神こそが皆さんを導く光です。それを道しるべとしていけば、皆さんは負けるはずはありません、責務を果たせないはずはありません。池田博士を私たちの「道の光、わたしたちの歩みを照らす^{ともしび}灯」(聖書 詩編 119)としていきましょう。

そして池田博士が、SGI 発足 40 周年を記念した 2015 年 1 月 26 日の「人道の世紀へ 誓いの連帯」と題した提言に示された、世界平和のビジョンを皆さんは是非継承して行って下さい。博士はそのビジョンの中で、国連憲章の前文に記されている誓約に立ち返ることを訴えています。「戦争の惨害から将来の世代を救い」、「基本的人権と人間の尊厳及び価値」に関する信念を再確認し、「す

すべての人民の経済的及び社会的発達を促進する」ことを皆さんに呼びかけているのです。また、「政治と経済の再人間化」「苦しみを共に乗り越えるためのエンパワーメントの連鎖」「不戦の防波堤となる、差異を超えた友情の拡大」を訴えています。

親愛なる卒業生の皆さん、これらはすべて、「立ち上がり、前進せよ」との皆さんに対する博士の呼びかけなのです。未来の世代のために、今日の気候変動の危機を救うために、正義を訴え、戦う一人になるのです。誰もが持っている調和の取れた、健全な環境を享受する権利を守る人になるのです、との呼びかけではないでしょうか。その点、創価大学の理工学部環境共生工学科があることを私はとても嬉しく思います。

皆さんは世界のあらゆる場所で起きている戦争、内乱、テロ行為、宗教的不寛容、迫害、不正、抑圧、腐敗や汚職を糾弾し、それらに終止符を打つために立ち上がり、前進する一人になっていて下さい。

皆さんは核兵器を廃絶するために立ち上がり、前進する一人になって下さい。

ゆえに、2015年の卒業生の皆さんは空高く飛翔して行ってください。恐れなくて下さい。あなたがこの地球で空高く飛翔できるよう、創価大学があなたを擁護し、支えてくれます。そしてあなたがこの世界をより良い場所へと変革していくのです。何も恐れることはありません。何故ならばあなたのご両親やあなたを大切に思う人々があなたのことを常に祈り、支えてくれているからです。そして何よりも、あなたへの愛情はどこまでも不変なのです。あなたを大切に思う方々の愛情、祈り、そして献身的な支えによって、あなたは本日の卒業という重要な佳節を迎えることができたのです。その方々への恩は計り知れません。その方々なくして今のあなたは存在しません。

ゆえに私は大切な卒業生の皆さんへ、そしてご両親へ、ご家族を始め、皆さんにとって大切な方々へ、心からの祝福を贈らせて頂きます。本日の主役は皆さまです。本日は皆さまの勝利の日です。大変におめでとうございます。

最後に池田博士の小説「人間革命」の言葉を贈り、私の挨拶に代えさせていただきます。これは本日ここにいる全ての人に対するメッセージではないでしょうか。

「一人の人間における偉大な人間革命は、
やがて一国の宿命の転換をも成し遂げ、
さらに全人類の宿命の転換をも可能にする」